

# IV 統計 豆 辞 典

## 国勢調査以前の人口の調べ方は？

国勢調査は、日本の人口や世帯の実態を明らかにする国の最も基本的で重要な統計調査であり、大正9年(1920年)の第1回調査開始から、令和2年は100年の節目を迎えます。

国勢調査以前、人口は戸籍に基づき推計されていました。明治4年(1871年)に交付された戸籍法により、日本最初の戸籍(壬申戸籍<sup>じんしんこせき</sup>)が作られ、これを基に刊行されたのが「日本全国戸籍表」です。この戸籍により、当時の日本の総人口は、3,311万人と集計されています。この戸籍調査でとらえられた本籍人口を基に、出生、死亡、転出入など戸籍変更の届出によって人口を推計していました。

大正9年(1920年)10月1日に行われた第1回国勢調査の結果、本来は国勢調査人口を下回るはずの本籍人口が遥かに上回ったことから、本籍人口・現住人口には死亡・脱籍等の届出漏れによる虚数がかなり含まれていることが判明し、戸籍に基づく推計人口は、人口構造を明らかにするという点に関しては、はなはだ不満足なものだったといえます。

国勢調査は、対象を直接調査し、対象の種々の属性を組み合わせるという近代統計調査として、こうした問題に解決を与えました。

参考：総務省統計局「国勢調査のあゆみ」 <https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2015/kouhou/ayumi.html>  
「国勢調査2020キャンペーンサイト」 <https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020campaign/index.html>